

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆ 2009年10月10日・11日両日、九州大学との共催で、2009年度日本語教育学会秋季大会が九州大学箱崎キャンパスで開かれた。今回は、受け付けた参加者が737名、発表者・招待者・関係者が80名で、総計819名の参加者があった。

1. 1日目は、開会式の前にシンポジウム「新しい日本語能力試験が目指すもの」が開かれた。このシンポジウムは会場校の九州大学からの発案・企画によるものである。今年度から秋季大会では、会場校からの希望がある場合のみ会場校の企画によるシンポジウムを行うことになっており、今回はその最初のケースとなった。今回のシンポジウムは、言語教育における大規模テストという、より大きな枠組みの中で新しい日本語能力試験を捉え、その理念や開発過程を紹介することを目的としていた。シンポジウムでは冒頭に、筑波大学名誉教授の友賢二氏に「言語テストの諸問題」というテーマで講演をいただいた。その後、試験問題の開発およびその検証に関する発表に入った。パネリストとして、国際交流基金日本語試験センターの大隅敦子氏、谷内美智子氏、小野澤佳恵氏、篠崎摂子氏、浅見かおり氏、名古屋大学の野口裕之氏、九州大学の小森和子氏にそれぞれ発表をいただいた。2010年度からの新試験実施という状況もあり会員の関心も高く、約700名という多数の参加者を得た。

2. 懇親会は、同じ建物内のファカルティクラブで行われ、参加者数231名と盛況であった。

3. 2日目には、4つの会場で27件の口頭発表、3つの会場で6件のパネルセッション、3つの会場で18件のポスター発表、2つの会場で6件のデモンストレーションが、それぞれ行われた。パネルセッションは応募が多かったため、当初予定の2会場を3会場に増やした。各会場で熱心な発表および質疑が行われた。

◆ 2009年10月11日、九州大学箱崎キャンパス文系講義棟403号室において、2009年度第5回大会委員会が開かれた。主な課題と審議の様子は、以下のとおりである。

1. 2010年春季大会進捗状況報告

会場校の早稲田大学小林ミナ氏より、大会実行

委員長は細川英雄氏（早稲田大学）に決定したことが報告された。

2. 今大会の実施状況中間報告

開催中の大会の各会場の実施状況が報告され、運営面で次回以降に改善が必要な点について確認を行った。

3. 2010年度春季大会以降の企画・運営について

2010年秋季大会については今後、神戸大学副センター長實平氏が会場校側の窓口になること、会場校からのシンポジウムの実施の希望の有無や、実施する場合の内容などについては未定であることが報告された。

2011年春季大会以降の会場については、今後情報を収集していくことが確認された。

4. その他

<説明会エントリー方法の確認>

委員長より「大会時の外部団体による説明会の受付について」（内規）が示された。今後、2日目の昼休みの説明会について希望があった場合は、この内規にも基づき、大会委員会での承認を経て認めることになった。

次回委員会は1月30日（土）午後2時より学会事務局にて行う予定である。

（二通 信子）

● 学会誌委員会

◆ 11月28日（土）午後2時～5時半、早稲田大学において学会誌委員会を開催した。出席は、委員16名と事務局から1名。欠席委員は7名。144号と146号および148号の特集の進捗状況について、145号以降の作業スケジュールについて報告のあと、下記事項を審議した。

1. コラム「海外の学会から」の目的、執筆者、内容などについて承認。

2. 林大記念論文賞の選考方法とスケジュールを承認。

3. 145号の投稿論文54篇の採否について慎重な審査の結果、コメント付き採用1本、条件採用6本、再投稿12本、不採用35本という結果になった。

4. 学会誌のリニューアルについて審議した。リニューアルWGは委員会終了後も会合を開き、引き続き検討を行った。

次回委員会は3月6日（土）午後2時より早稲田大学にて行う予定である。

（廣瀬 正宜）

● 研究集会委員会

I. 研究集会報告

1. 平成21年度第7回研究集会（関西地区）

日時：2009年9月26日（土）13:00～17:10
会場：日本学生支援機構大阪日本語教育センター
参加人数：80名（会員52名，一般28名）
内容：研究発表15件，講演：講師 野田尚史氏（大阪府立大学）題目「コミュニケーションのための日本語教材の作成方法」

野田尚史氏からコミュニケーションを目的とした新しい日本語教材の提案がなされた。従来の日本語教材の不自然な点を具体的に指摘し，それにかわるものとして新たな教材例が示された。講演会場は，講師や参加者から互いに多くの意見や質問が出て，終始熱気に包まれ，非常に有意義であった。研究発表は4会場に分かれ，さまざまなテーマについて各会場とも活発に議論が行われた。
（報告者：清水孝司）

2. 平成21年度第8回研究集会（東北地区）

日時：2009年11月14日（土）13:30～17:35
会場：山形大学小白川キャンパス
参加人数：38名（会員16名，一般22名）
内容：研究発表4件，ワークショップ：講師 向後千春氏（早稲田大学）題目「『こんなデータでも何とかできますか？』～研究計画とデータ分析のワークショップ」

4本の研究発表のうち2本は日・中・韓の対照研究，2本は中等教育機関（地域1，海外1）における日本語教育の調査と実践に関するものだった。プログラム後半には，早稲田大学の向後千春准教授により「『こんなデータでも何とかできますか？』～研究計画とデータ分析のワークショップ」が行われた。論証のため統計をいかに用いるか，実験計画をどう立てるかについて，参加者からの事例や当日の発表を取り上げた問題解決型のワークショップはわかりやすく好評で，日本語教育研究に携わる者にとって価値あるものだった。研究発表，ワークショップともに，活発な質疑応答が交わされ，予定時間を少し超えるほどで，小規模ながら充実した集会となった。来年度は，仙台の宮城教育大学で開催の予定である。
（報告者：黒沢晶子）

3. 平成21年度第9回研究集会（四国地区）

日時：2009年11月28日（土）10:30～17:00
会場：愛媛大学
参加人数：114名（会員38名，一般76名）
内容：研究発表13件，活動報告，講演：講師 山田泉氏（法政大学）題目「生涯学習としての地域日本語活動とともに学び，ともに変わるために」
研究発表概略：13件の発表が3会場に分かれて

行われた。内容は，教師養成，地域の日本語支援，評価，ストラテジー，日韓対照，発音指導と多岐にわたり，各会場とも活発な質疑応答が交わされた。

活動報告概略：地域在住外国人の日本語学習支援を行う18団体（香川県1，徳島県1，高知県2，愛媛県14）がポスター発表を行った。参加者と発表者の密なコミュニケーションができたことで，実質的な相互理解，そして情報交換の場となった。

今回の研究集会は「地域の日本語」をテーマに，講演，研究発表，活動報告の3部構成で行った。地域の活動団体にとって，学会の研究集会への参加は敷居が高いようで，敬遠される傾向があるため，活動報告のセッション実施にあたっては，いくつかの団体に直接訪ねて説明を行い，参加を依頼するという方策をとった。その甲斐あってか，18団体もの参加を得ることができた。研究集会が地域の人々の身近になったという意義は大きい。さらに，四国四県の団体が直接接触できたことで，今後，四国内の県境を越えた交流が進んでいくことも期待される。

（報告者：向井留実子）

II. 会議記録

◆平成21年度第2回研究集会全体委員会(10月10日)

1. 各地区研究集会についての報告と課題・提案など
2. 来年度の各地区研究集会予定
3. 全体話し合い

◆平成21年度第4回研究集会中央委員会(10月15日)

1. 全体委員会報告
2. 2009年度実践研究フォーラムWEB版報告について
 - (1) 委員コメントについて
 - (2) 今後の流れ・日程
3. 2010年度実践研究フォーラムについて
 - (1) 大テーマについて
 - (2) パネルディスカッションについて
 - (3) ラウンドテーブルについて
 - (4) 委員の担当決め
 - (5) 今後の流れについて

◆平成21年度第5回研究集会中央委員会(11月12日)

1. 2009年度実践研究フォーラムWEB版報告について
 - (1) 修正原稿の確認
 - (2) 今後の流れ・日程
2. 2010年度実践研究フォーラムについて
 - (1) 大テーマの決定
 - (2) パネルディスカッションについて
 - (3) ラウンドテーブルについて
 - (4) ポスターセッションについて

- (5)募集要項の作成および今後の日程について
3. その他
全体委員会メール協議事項の確認

- ◆平成21年度第6回研究集会中央委員会(12月10日)
- 2009年度実践研究フォーラムWEB版報告について
最終掲載原稿の確認
 - 2010年度実践研究フォーラムについて
(1)募集要項について
(2)パネルディスカッションについて
 - その他
全体委員会メール協議事項の確認

※次回会議日程

全体委員会 2010年5月22日(土)

中央委員会 2010年3月29日(月)

(堀井 恵子)

● 教 師 研 修 委 員 会

I. 研修実施報告

- 短期集中研修「大規模試験を見る目・現場に活かす力を養う一課題遂行能力の育成と測定にむけて」
講師：伊東祐郎(東京外国語大学), 大隅敦子(国際交流基金日本語試験センター), 畠山理恵(同)

開催日：2009年10月24日(土)

場所：東京国際大学早稲田サテライト

参加者：47名

- 短期集中研修「日本語教師のための統計学入門(後半)」

講師：黒沢学(東京電機大学)

開催日：2009年12月13日(日)

場所：東京海洋大学

参加者：52名

- 日本語アトリエNKG第4回「Moodleで始める簡単・楽々eラーニング」

ゲスト：秋山實

(株式会社eラーニングサービス)

開催日：2009年12月11日(金)

場所：日本語教育学会事務局会議室

参加者：19名

II. 今後の研修予定

- 短期集中研修「ケース(事例)で学ぶビジネス日本語教育一問題解決型討論活動のデザイン」

講師：池田玲子(東京海洋大学), 近藤彩(政策研究大学院大学), 神吉宇一((財)海外技術者研修協会)

開催日：2010年1月9日(土)

場所：政策研究大学院大学

定員：30名

- 短期集中研修「教室活動のデザインⅢ」
講師：ボイクマン総子(筑波大学), 齋藤伸子(桜美林大学)

開催日：2010年2月13日(土)

場所：桜美林大学四谷キャンパス

定員：30名

- オンライン研修

「日本語教師のためのOn-Line IT講座基礎編」

開催日：2010年1月18日(月)～3月26日(金)

講師：福田真樹子(米国トリニティー大学)

監修：畑佐一味(米国パデュー大学)

定員：8名

- オンライン研修

「日本語教師のためのOn-Line IT講座活用編」

開催日：2010年2月1日(月)～3月26日(金)

講師：中澤一亮(台湾元智大学)

アシスタント：広谷真紀(米国ローズハルマン工科大学)

監修：畑佐一味(米国パデュー大学)

定員：15名

- 日本語アトリエNKG

開催日：原則として、3月、6月、9月、12月に実施予定 ※次回2010年3月下旬(金)予定

場所：日本語教育学会事務局会議室

定員：各回20名

◆「日本語教師研修コース」についての詳細は日本語教育学会Websiteの教師研修ページをご覧ください。詳細が決まり次第、順次ホームページに掲載していきます。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/menu-kenshu.htm>

III. 委員会での討議事項

- 2009年度第4回教師研修委員会(10月17日)

(1)評議員懇談会報告

(2)2009年度合宿研修追加反省および来年度の合宿研修に向けて

(3)新教師委員会のコンセプト

(4)2010年度の研修企画

(5)今年度後半の研修詳細

- 2009年度第5回教師研修委員会(12月4日)

(1)教師研修委員会のあり方について

・研修に関するコンセプトの確認

・社会のニーズへの対応の可能性

※来年度より国際交流基金からの助成金が廃止となる旨報告を受ける。独立採算制での研修実施の方法、教師研修委員会の存在意義について話し合う。

(2)2009年度の研修

・10月～12月実施の研修に関する実施報告

- ・ 1月～3月実施予定の研修に関する詳細報告
 - ・ 3月実施予定のアトリエ案
- (3)2010年度の研修
- ・ 1年間の研修企画のコンセプト確認
 - ・ 合宿研修の形態・内容の検討
 - ・ 来年度アトリエ開催について
(事務局移転に伴う変更事項について)
- ※具体的な研修企画に関しては、次回の委員会でも検討する。
- (4)出版物の検討
- 4月および12月に実施した「統計研修」の出版企画に関する中間報告

※次回の教師研修委員会会議予定
2010年1月30日(土)

(嶋田 和子)

● 試験分析委員会

第6回試験分析委員会 2009年10月17日(土)

1. 『平成20年度(2008年12月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿(2章, 文字・語彙類, 聴解類, 読解・文法類)について話し合われた。
2. 今後の日程について確認と調整を行った。

第7回試験分析委員会 2009年12月19日(土)

1. 日本語能力試験小委員会との平成20年度合同委員会(2009年11月実施)各類について報告がなされた。
2. 『平成20年度(2008年12月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿提出, 要旨作成のスケジュールを検討した。
3. 2009年7月実施試験の分析スケジュールについて検討し, 今年度第9回委員会(2月開催)より2009年7月実施試験の分析を開始することとなった。

(野口 裕之)

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2009(平成21)年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店 (普)130-880757
- 現金書留

銀行の支店の統合により、「みずほ銀行」への会費振込先が上記のとおり変更になりました。ご注意ください。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年度会費の自動引落システム」の運用を開始いたしました。全国の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等)をご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

● 住所等の変更について

次頁の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX	: 03-5216-7552
E-mail	: kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用: gakkaiishi@nkg.or.jp

● お詫びと訂正

『日本語教育』143号に誤りがありましたので、お詫びして、下記のとおり訂正します。

『日本語教育』143号 p.70 参考文献(10)

誤) 横林宙代
正) 横林宙世

- ◆ 会員データに変更のあった方は、太線枠内のすべての項目についてご記入の上、下記届出先までお送りください。また、会員名簿等への掲載の可否につきましても併せてお知らせください。

届出先：社団法人 日本語教育学会 会員サービス係

FAX：03-5216-7552 Email：kaiin@nkg.or.jp

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館 2階

会員データ変更届

個人用

名簿掲載 (○で囲む)	会員番号		届出日	年 月 日
	氏 名	姓	名	
	漢 字			
可・否	フリガナ			
	ローマ字			
可・否	自宅住所 〒 ()			
可・否	電話	FAX		
可・否	主たる所属機関名			
非掲載	職種 1. 教育職 2. 研究職 3. 行政職 4. 教務事務職 5. 一般事務職 6. 学生 7. その他 ()			
非掲載	勤務形態 1. 常勤 2. 非常勤 3. その他 ()			
可・否	所在地 〒 ()			
可・否	電話	FAX		
可・否	E-mailによる各種ご案内送付先 (1件だけご記入ください) E-mail:			
学会誌等郵便物送付先 (いずれかに○をつけてください。 () 自宅 () 所属先				